

ジェロントロジーと保険学

平成22年度日本保険学会大会

2010年10月24日（日）

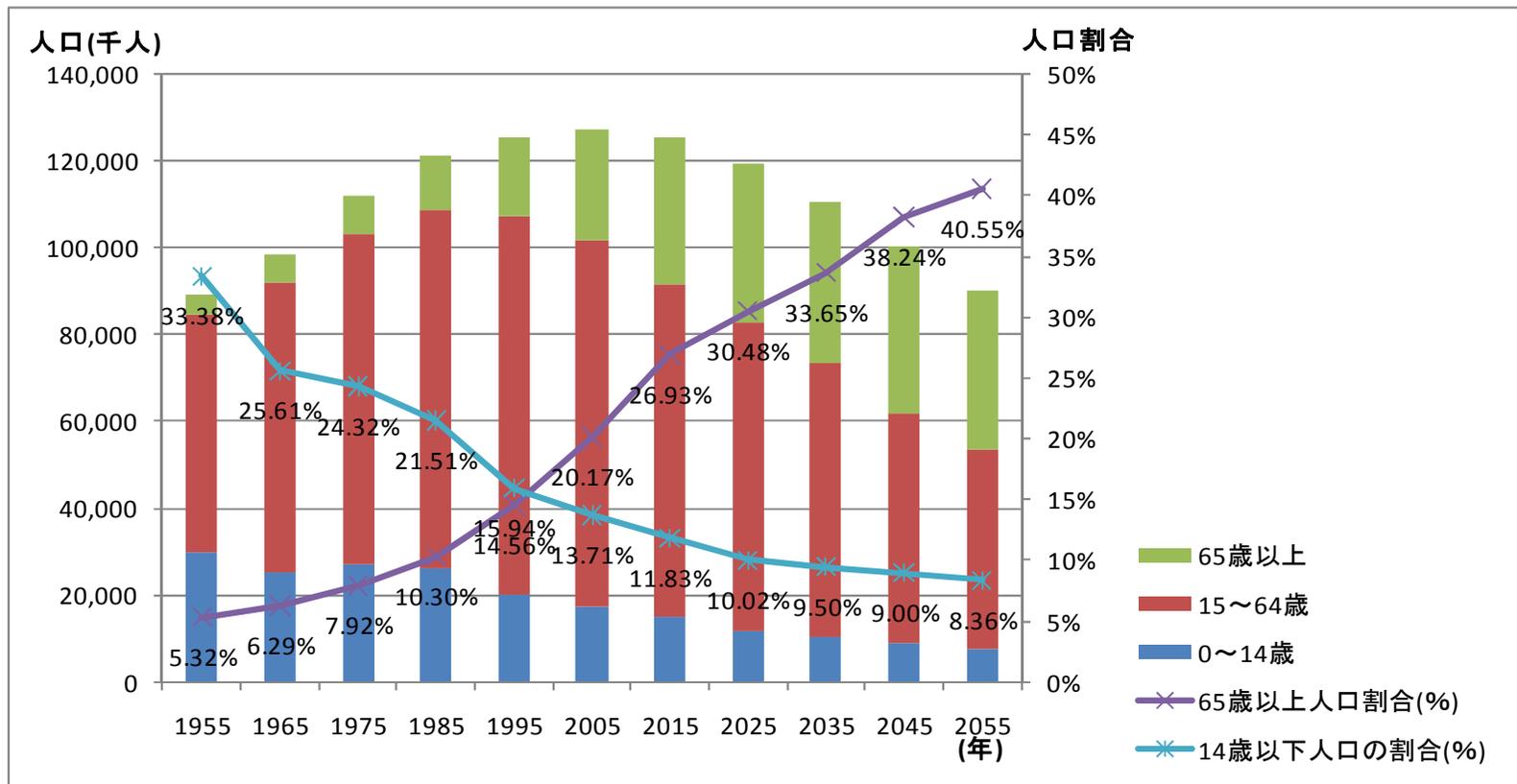
早稲田大学早稲田キャンパス310教室

駒澤大学大学院経営学研究科研究生

梅田篤史

1. はじめに

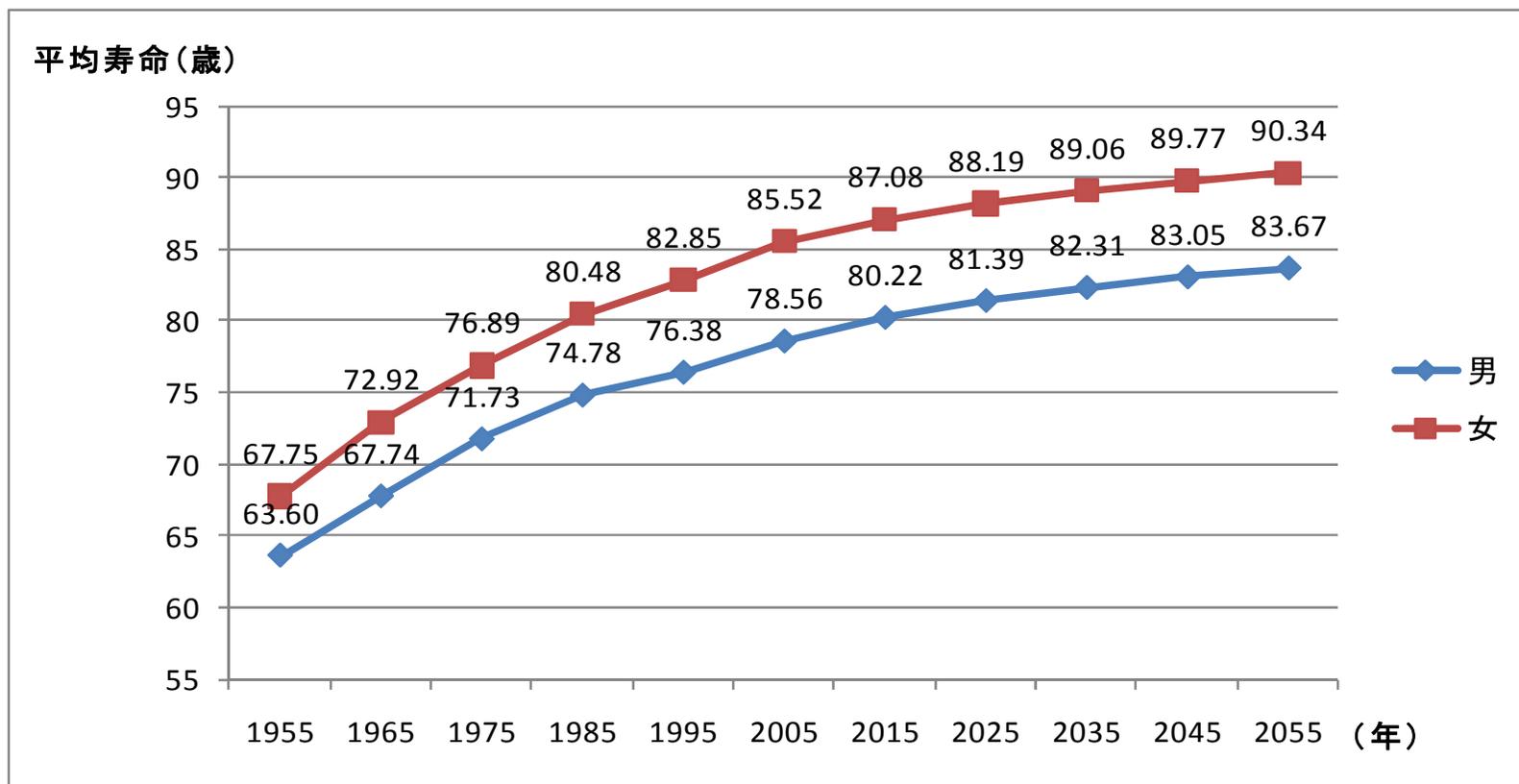
図表1 年齢(3区分)別人口の推移および将来推計



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集2010』2010年、を筆者により加筆修正。

1. はじめに

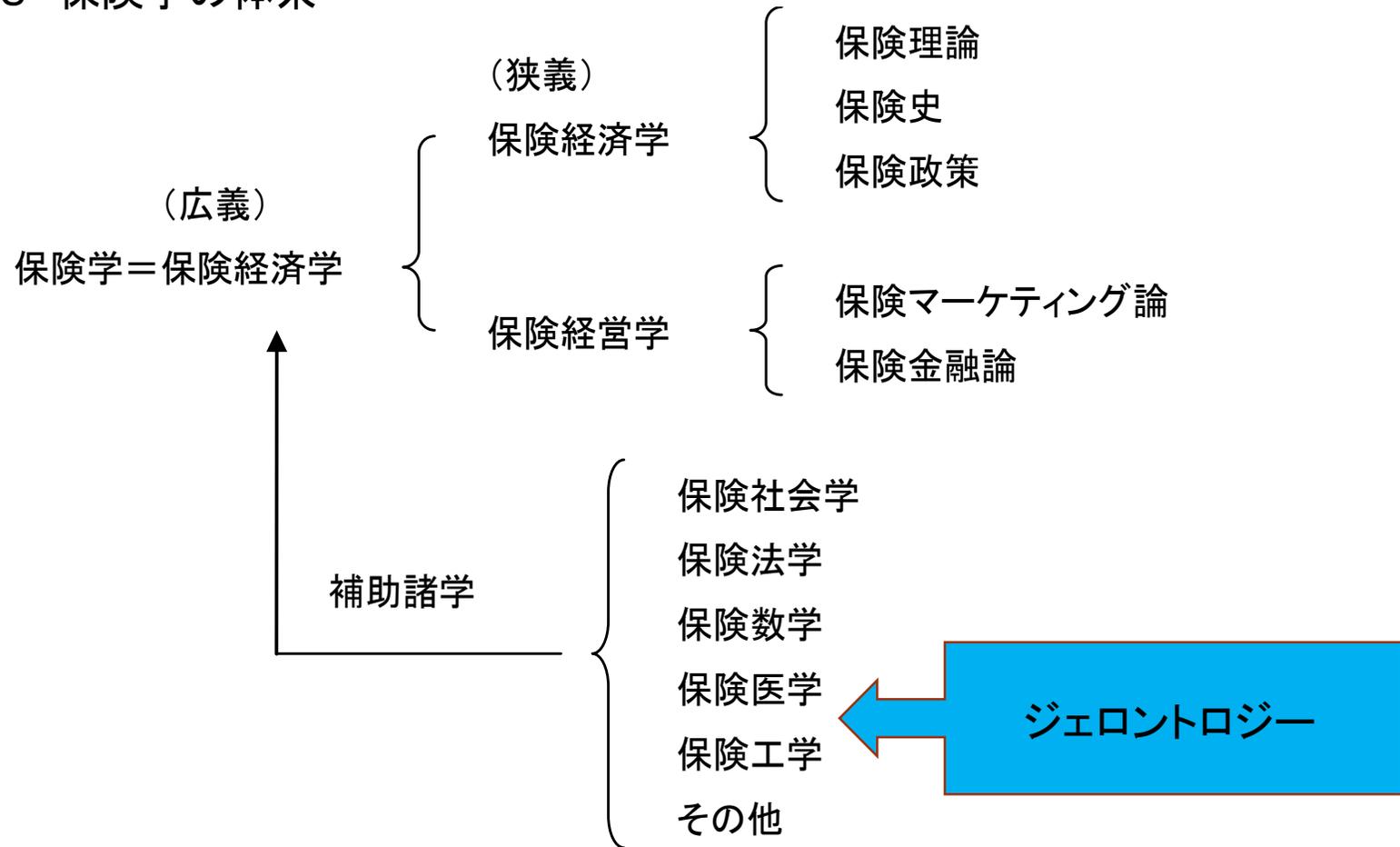
図表2 男女別平均寿命の推移と将来推計



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計[中位])を筆者により一部修正。

1. はじめに

図表3 保険学の体系

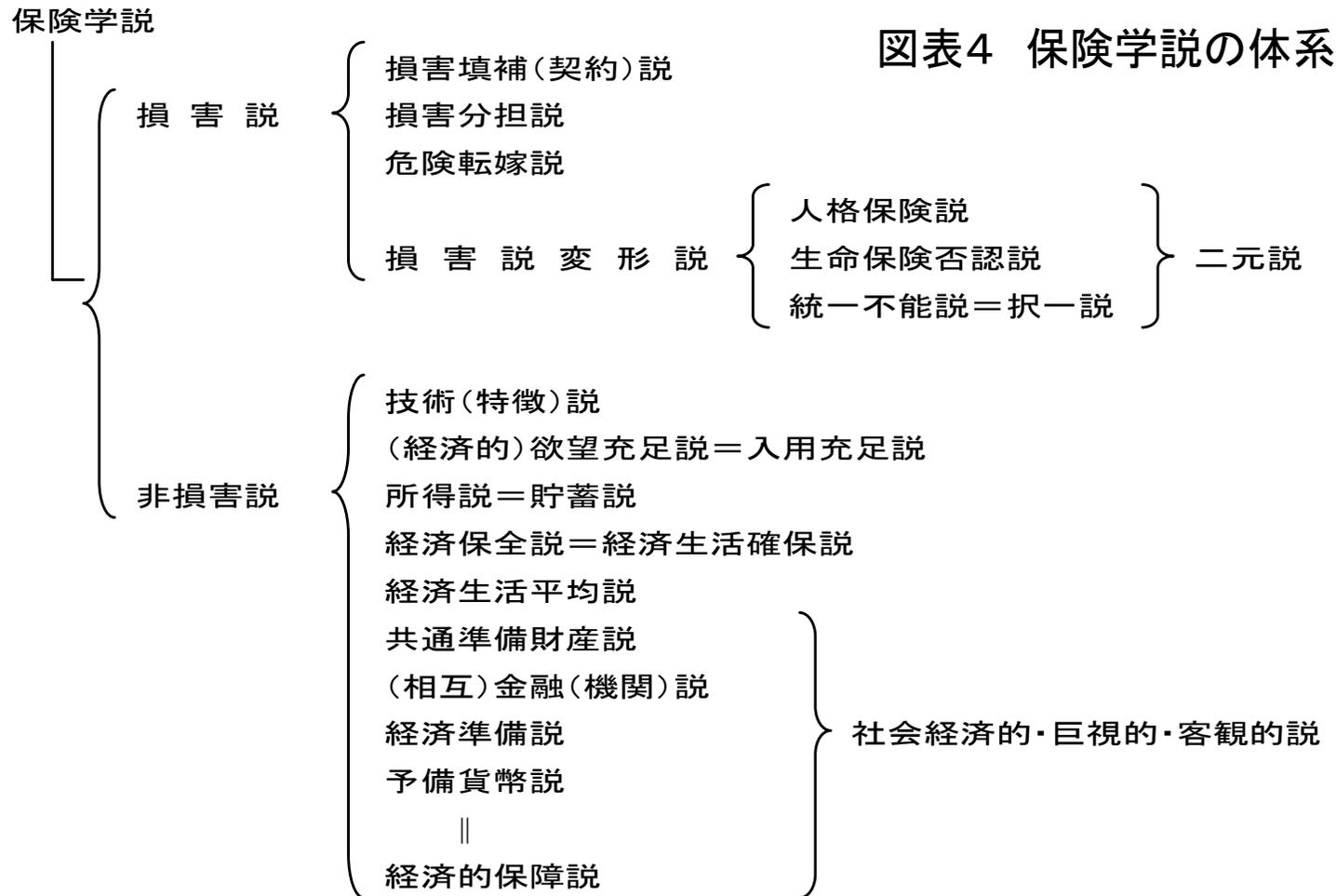


1. はじめに

- 本研究の目的
 - ジェロントロジーの基本理論
 - 高齢社会における保険の方向性
 - ジェロントロジーが保険学に影響を与える可能性

2. 保険学説の体系と保険の対象

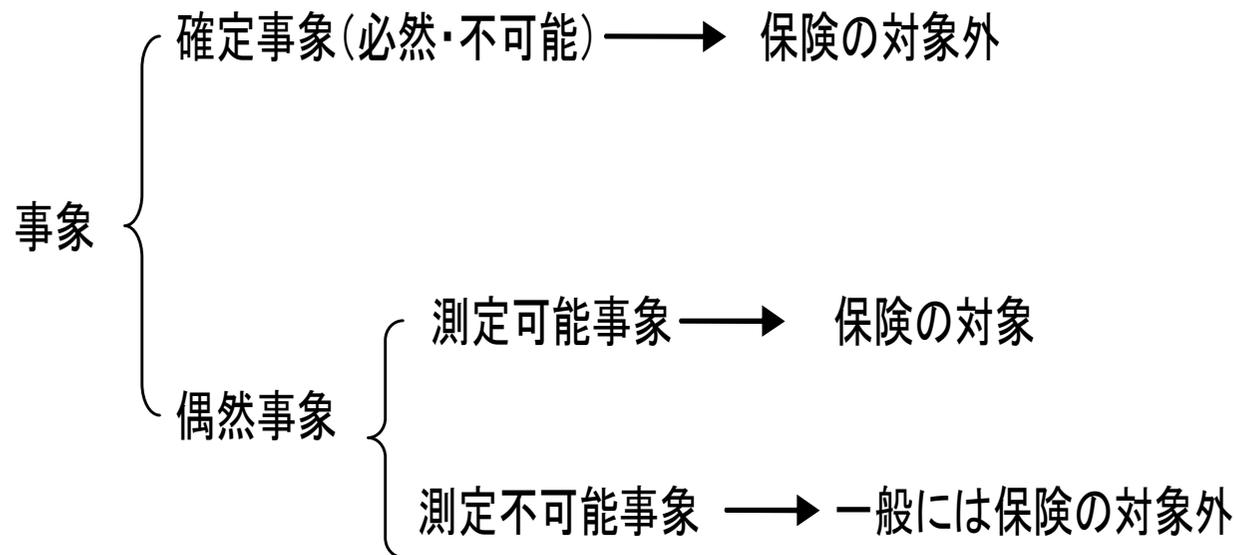
2 - (1) 保険学説の体系



(出所)庭田範秋・平井仁『共同組合保険の歴史と現実』共済保険研究会、1972年、p.298。

2 - (2) 保険の対象

図表5 保険の対象



(出所)庭田範秋編『保険学』成文堂、
p.23。

2 - (2) 保険の対象

- 技術的限界として保険不可能とされているもの
 - ①危険発生測定の困難な危険
 - ②過大な危険や過小な危険
 - ③高頻度あるいは低頻度の危険
 - ④限定された地域に発生するあるいは同時性の危険
 - ⑤客観的な経済的評価が困難な危険
- など

3. ジェロントロジーの理論と老化のリスク概念

3 - (1)

ジェロントロジーの理論

- ジェロントロジーとは

人間の老化を理解するために必要な根拠となる老化の原因や仕組みを中心とした老化の本質を追求し、現実の社会生活における老化および老年期に対する要求にこたえるための学問である。

3 - (1)

ジェロントロジーの理論

- ジェロントロジーの4つの視点

①生物学的視点

②心理学的視点

③社会心理学的視点

④社会学的視点

3 - (1)

ジェロントロジーの理論

◆ 社会科学的ジェロントロジーの代表的文献

ロバート・C・アッチェリー、アマンダ・S・バルシュ／宮内康仁編訳『ジェロントロジー～加齢の価値と社会の力学～』きんざい、2005年。

【目次】

- 第1章 ジェロントロジーとは
- 第2章 エイジングの歴史的変遷
- 第3章 現代社会に描かれる高齢者像
- 第4章 からだに生じる加齢現象
- 第5章 こころと知能の加齢現象
- 第6章 社会生活と加齢の関係

3 - (1)

ジェロントロジーの理論

- 第7章 人間関係と家族介護
- 第8章 高齢者を取り巻く雇用環境と実際の退職
- 第9章 高齢期の所得と住まい
- 第10章 社会的不平等
- 第11章 スピリチュアリティ
- 第12章 死と死ぬこと
- 第13章 加齢にともなう変化への適応
- 第14章 地域サービス
- 第15章 医療と介護
- 第16章 高齢化と経済問題
- 第17章 政治と行政
- 第18章 これからの社会とジェロントロジー

3 - (2)

老化のリスク概念

- 老化とは、加齢による身体機能の衰退現象である。
- 老化はすべての人間に起こる現象である。
- 身体機能の衰退（変動）は、生活環境や予防の有無など個人により衰退の程度が異なる。
⇒老化はリスクである。
- しかし、老化そのものは経済的損失とはならない。
⇒保険の対象とはならない。

3 - (2)

老化のリスク概念

- そのいっぽうで、老化は様々な病気や事故を発生させる確率と、事故による損失の拡大を引き起こす要因となる。

⇒老化は、ハザードとしての性質も含んでいる。

これらは保険の対象となるが、高齢（年齢）が理由で保険不可能とされることがある。

4. 高齢社会における保険と ジェロントロジーが保険学に影響を与える可能性

4. 高齢社会における保険と ジェロントロジーが保険学に影響を与える可能性

A. 高齢者が保険の対象外となる可能性

B. 現物（型）給付の必要性

C. 保険に付随するサービスの充実

A. 高齢者が保険の対象外となる可能性

- 寿命の伸長
- 高齢者の体力

⇒保険学に影響を与える可能性

- ・ 保険の対象における技術的限界の再検討

B. 現物（型）給付の必要性

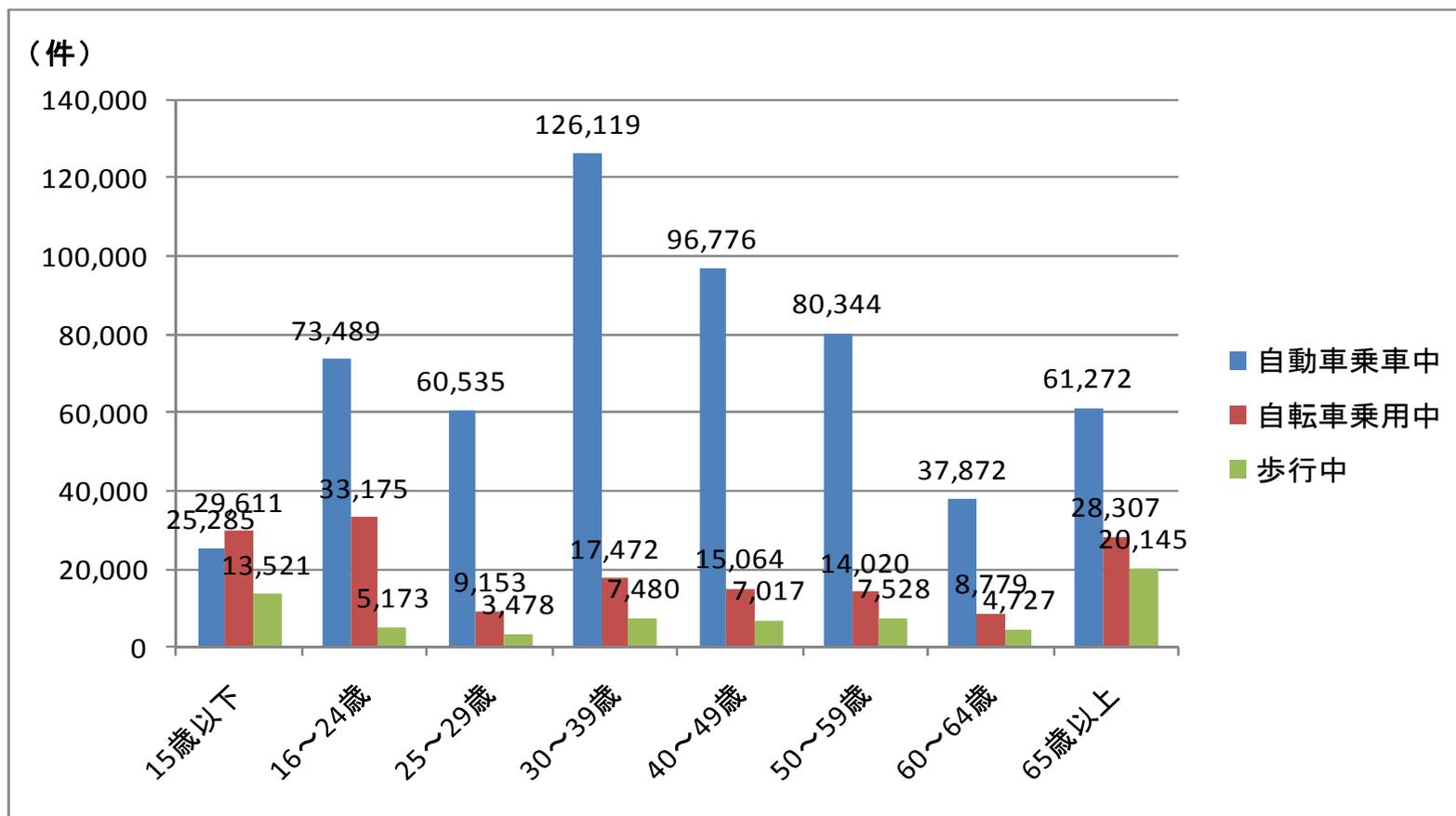
- バリアフリー構造への増改築（リフォーム）のための資金作りが組み込まれた住宅保険

⇒高齢者の事故の多くは、家の中で起こっている

- 運転を引退した契約者の今後の交通手段の確保のための資金作りが組み込まれた自動車保険

B. 現物（型）給付の必要性

図表6 年齢層別・状態別負傷者数の推移(2009年)



(出所)警察庁交通局「平成21年中の交通事故の発生状況」(平成22年5月)
を筆者により加筆修正。

B. 現物（型）給付の必要性

- 現物（化）給付を必要とする根拠

① 必要な物を購入するのが困難である

（例）バリアフリー化、葬儀の手配など

B. 現物（型）給付の必要性

- 現物（化）給付を必要とする根拠

②多額の現金を持つことによる危険（トラブル）の発生を減少させるため

アッチェリー、バルシュ／宮内訳『ジェロントロジー～加齢の価値と社会の力学～』 pp.194-198より、

- 高齢者の収入に依存する家族ほど高齢者を虐待する傾向が強い（高齢者が家族を虐待するケースもある）。

B. 現物（型）給付の必要性

- ・高齢者は詐欺被害に会うことが多い。

図表7 高齢者の犯罪種別被害状況(2009年)

(単位:人)

	殺人	強盗	暴行	傷害	脅迫	恐喝	窃盗	詐欺	その他	合計
高齢被害者	237	429	1,786	1,761	175	177	110,037	6,054	23,307	143,963
全年齢	1,083	4,137	29,638	26,464	2,277	5,423	1,068,648	26,067	198,580	1,362,317
高齢者の割合	21.9%	10.4%	6.0%	6.7%	7.7%	3.3%	10.3%	23.2%	11.7%	10.6%

(出所)警察庁「平成21年の犯罪情勢」(平成22年5月)を筆者により加筆修正。

B. 現物（型）給付の必要性

⇒保険学に影響を与える可能性

- ・保険学説では、現物給付保険は排除されているが、高齢社会における現物給付の排除（禁止）は必ずしも合理的ではない。

C. 保険に付随するサービスの 充実

- 健康・心理に対するカウンセリング・サービスと
経済上のアドバイス
 - 独居高齢者と社会的孤立
 - 高齢者の自殺

C. 保険に付随するサービスの充実

図表8 2009年における年齢別自殺者数および自殺の原因・動機

(単位:人)

	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳~	不詳	計
自殺者数	565	3,470	4,794	5,261	6,491	12,034	230	32,845
割合	1.7%	10.6%	14.6%	16.0%	19.8%	36.6%	0.7%	100.0%

(単位:人)

	全年齢		60歳以上総数		60歳以上男		60歳以上女	
		割合		割合		割合		割合
家庭問題	4,117	12.1%	1,612	13.5%	1,008	13.0%	604	14.6%
健康問題	15,867	46.7%	7,258	60.9%	4,254	54.7%	3,004	72.6%
経済・生活問題	8,377	24.6%	2,089	17.5%	1,859	23.9%	230	5.6%
勤務問題	2,528	7.4%	222	1.9%	205	2.6%	17	0.4%
男女問題	1,121	3.3%	59	0.5%	38	0.5%	21	0.5%
学校問題	364	1.1%	1	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
その他	1,613	4.7%	671	5.6%	410	5.3%	261	6.3%
総数	33,987	100.0%	11,912	100.0%	7,775	100.0%	4,137	100.0%

(出所)警察庁生活安全局生活安全企画課「平成21年中における自殺の概要資料」(2010年5月)を筆者により一部修正。

ご清聴ありがとうございました。